

# ASUKA

## CLUB MAGAZINE

THE FINEST  
VOYAGE  
TOGETHER

ASUKA  
CLUB  
MAGAZINE

NO. 111

Summer 2025

夢は  
まもなく、  
あなたと  
海へ。

Special  
2つのグランドクルーズ

Special  
初航海へのカウントダウン

Essay  
辻村深月

Interview  
渡辺真知子

Introduce  
機関部

Collection  
カジノ

Foodie  
瀬戸内ビュッフェ

Foodie  
瀬戸内ビュッフェ



My ASUKA CLUB

My ASUKA CLUBへ  
ようこそ！  
お楽しみコンテンツも  
いろいろ

My ASUKA CLUB

会員の皆様の  
パーソナルなホームページ  
My ASUKA CLUB。  
デジタルで優待割引券や船上クーポン、  
予約や乗船履歴の確認などお得な、  
そして役立つ情報がたくさん。  
今回はトピックスや投票企画など、  
会員様向けのお楽しみコンテンツをご紹介します。  
ぜひ、アクセスしてご覧ください！

投票結果に興味津々！

## #飛鳥VOTE

皆様の投票が集計されて  
結果を発表。  
ちなみに  
「幻想的なアジアの夜景対決！」では  
僅差で「九份(台湾)」がトップに！  
「みなさんは？」「私だったら」  
思いを巡らす楽しいコンテンツです。

投票結果	
投票A フット・アレン (タイ)	28%
投票B 九份 (台湾)	39%
投票C ビクトリアハーバー (香港)	33%
投票総数：120票	



キャプテンの裏話も！

## #飛鳥FOUCS

例えば、  
お客様の乗船日と下船日に船を飾る  
「満船飾」のいわれを  
キャプテンが語るなど、  
スタッフの声や裏話、  
飛鳥クルーズをとりまく様々なものに  
焦点を当ててご紹介するコンテンツです。



### 客船余話 第1回 大さん橋にたなびく満船飾

「客船余話」はMy ASUKA CLUB会長を務める中村キャプテンの視点で客船の世界をご紹介します、ちょっぴりマニアックな不定期エッセイです

アクセスは  
こちら！

パソコンの場合は  
飛鳥クルーズのホームページから  
アクセス

マイアスカクラブ 🔍 検索  
https://myac.asukacruise.co.jp

二次元コードから  
My ASUKA CLUBに  
アクセス！



2025年6月30日発行

発行／郵船クルーズ株式会社 My ASUKA CLUB 事務局  
〒220-8147 横浜市中区みなとみらい 2-2-1 横浜みなとみらいセンター47階 TEL. 045-640-5302  
発行人／西島 裕司  
ホームページ https://www.asukacruise.co.jp







# 2つのグランドクルーズ 東へ西へ

Special Feature 1

4

8

地上の食卓と、船の教室  
辻村深月

Cruising Library ⑪

Asuka Cruise Interview ⑩

渡辺真知子さん

10

12

もっと知りたい飛鳥のこと ⑩

機関部

Special Feature 2

飛鳥Ⅲ  
初航海へのカウントダウン

夢はまもなく、  
あなたと海へ

14

飛鳥の美しいかたち⑩

カジノ♣モンテカルロ

18

20

寄港地のいちおし

ASUKA WALKING & RUNNING CLUB — 21

工房を訪ねて⑦

22 — 雨宮弥太郎

美食遊覧⑩

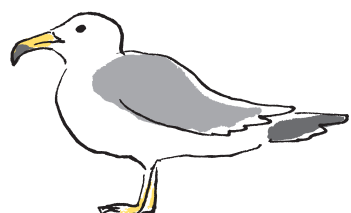
瀬戸内ビュッフェ — 24

Welcome Aboard — 26

ASUKAⅢNEWS — 28

Cruise Desk — 29

Club Information — 30



発行／郵船クルーズ株式会社  
My ASUKA CLUB 事務局  
〒220-8147  
横浜市西区みなとみらい2-2-1  
横浜ランドマークタワー47階  
電話 045(640)5302  
発行人／西島裕司  
制作・編集／浪漫堂、アドレサンス浪漫堂  
AD+デザイン／岡本一宣デザイン事務所  
写真／名取和久、尾鷲陽介、坂本泰士、湯田義雄  
イラストレーション／秋山花、楠木雪野、楠のおお  
©郵船クルーズ株式会社  
※本誌の記事および写真の  
無断転載・複写をお断りします。

## 新社長就任のご挨拶

My ASUKA CLUB会員の皆様、

日頃より飛鳥クルーズをご愛顧くださり、誠に有難うございます。

6月に郵船クルーズ株式会社第9代社長に就任いたしました西島 裕司でございます。

誌面を借りて皆様にご挨拶申し上げます。

1991年に初代「飛鳥」が就航して以来、初めて“2隻での飛鳥クルーズ”を

皆様にご披露できることに、心躍る思いでございます。

ここに至ることが出来たのも、My ASUKA CLUB会員の皆様をはじめとする

お客様の温かいご支援の賜物と、深く感謝申し上げます。

「飛鳥Ⅱ」、「飛鳥Ⅲ」ともに、これまで培って参りましたおもてなしの心を更に高めつつ、

それぞれの特長を活かし、お客様により多彩なクルーズをご提供して参ります。

2隻で“幸を編む”ことで、より大きな“至福の船旅”を創出してゆきたいと考えておりますので、

引き続き飛鳥クルーズをよろしく願い申し上げます。

皆様のご乗船を、両船乗組員と社員一同、楽しみにお待ちしております。

郵船クルーズ株式会社 代表取締役社長 西島 裕司



Yuji Nishijima

## 「飛鳥Ⅲ」船長就任のご挨拶

My ASUKA CLUB会員の皆様、

このたび「飛鳥Ⅲ」の船長に就任いたしました

飛鳥クルーズ第11代船長の小久江 尚です。

私は1996年に日本郵船の当時のグループ会社だった

クリスタルクルーズ社の「クリスタル・ハーモニー（現「飛鳥Ⅱ」）」に乗船以降、

「クリスタル・シンフォニー」、「クリスタル・セレンティー」に9年間、

そして2008年からは「飛鳥Ⅱ」一等航海士、2009年から副船長、

2014年12月からは「飛鳥Ⅱ」の6代目船長として

16年間にわたり「飛鳥Ⅱ」に携わらせていただきました。

そしてこの度、我社にとって34年ぶりに就航する

新造客船「飛鳥Ⅲ」の初代船長として再び飛鳥クルーズの魅力を

皆様へお届けすることができる機会をいただき大変光栄に思っております。

「飛鳥Ⅲ」は多彩な選択肢を揃え、あらゆる世代とニーズに応えるサービスを提供していきます。

「飛鳥Ⅱ」とはまた異なった環境の空間で、

皆様それぞれのクルーズライフを思いのままにお過ごし頂ければと思います。

皆様にとって馴染みのある「飛鳥Ⅱ」の乗組員に加え、

新しい乗組員を迎えた新メンバーにて、

「飛鳥Ⅱ」同様に皆様の心に刻まれる「最幸時間」を求めて未来への航海へと船出します。

「飛鳥Ⅱ」同様「飛鳥Ⅲ」を、

そして飛鳥クルーズを引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

飛鳥クルーズ第11代船長 小久江 尚



Hisashi Kogoe



～「飛鳥Ⅱ」就航20周年記念～

# 2026年 アジアグランド クルーズ

横浜発着

2026年1月15日～2月19日

神戸発着

2026年1月16日～2月18日

1/15	横浜	日本
1/16	神戸	日本
1/19・20	基隆	台湾
1/23	マニラ	フィリピン
1/25	ボラカイ島 錨泊【初寄港】	フィリピン
1/27	コタキナバル	マレーシア
1/30	シンガポール	シンガポール
2/2・3	レムチャパン	タイ
2/6	ホーチミン	ベトナム
2/9	ハロン湾 錨泊	ベトナム
2/12・13	香港	中国
2/18	神戸	日本
2/19	横浜	日本



シクロに乗って街をゆくと  
どこか懐かしい風景がすぎていく  
生活のリズムが聞こえてくる

Photograph by Pham Le Huong Son



Photograph by seng chye teo

Grand  
Cruise

GO EAST

to A S I A

Special Feature 1

特集1

My ASUKA CLUB会員グランド特別割引  
2025年7月31日(木)までに全額お支払いの  
お客様は旅行代金が25%割引

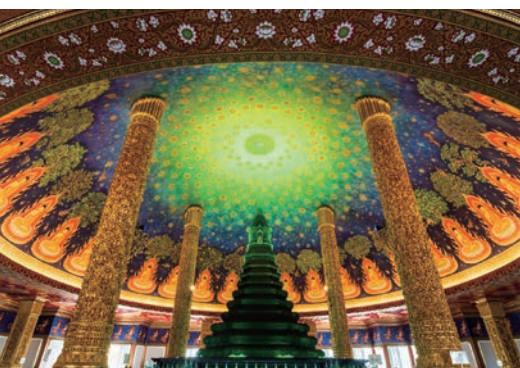
My ASUKA CLUB会員早期全額支払割引  
2025年9月30日(火)までに全額お支払いの  
お客様は旅行代金が20%割引  
※詳しい旅行代金、区間乗船については、  
ホームページをご覧ください

## 色彩あふれるアジアへ

1つ目のグランドクルーズは個性あふれる9つの寄港地を巡るアジアへ。好奇心が刺激される旅です。各寄港地をよりディープに楽しんでいただける寄港地観光ツアーもご用意しています。例えば、ホーチミンからはシクロを連ねて、地元のマーケットを訪れたり、ベトナム南部で愛される米麺「フォーティユナンバン」を食べに行きましょう。シクロに揺られ、活気ある街のリズムが感じられますよ。台湾ではおいしい小籠包づくりに挑戦したり、願いを込めて天燈上げをしたり。見るだけではなく、触れたり、味わうことで寄港地

の魅力を五感で楽しんでいただけます。

船を離れて内陸観光を楽しむランドツアーも人気です。乾期で晴天率の高いヒマラヤの遊覧飛行や、密林にたたずむ荘厳なアンコールワット、仏教国ラオスへも足を延ばすことができます。バンコクのランドツアーでは、アユタヤ時代に創建された王室寺院ワットパクナムへ。寺院内は美しいエメラルドガラスの仏塔が輝き、訪れる人を魅了します。その他にも、アジアの魅力あふれる都市や世界遺産を巡るランドツアーを計画中です。



バンコクのワットパクナム  
アートのようなブッダの生涯図は  
息をのむほどの美しさ



小籠包づくりに挑戦

# 2つの グランドクルーズ 東へ西へ

2026年「飛鳥Ⅱ」は2つの対照的なグランドクルーズへ出航します。

東は色彩あふれるアジアへ、  
西は大自然のアラスカ・ハワイへ。  
どちらも飛鳥クルーズならではの  
魅力がたっぷりとつまった  
グランドクルーズです。



ハロン湾をクルージング



赤い水を意味するワイメア  
「太平洋のグランドキャニオン」は  
途方もない時間が刻んだ彫刻



Hawaii Tourism Authority



切り立った緑の絶壁に  
氷河が青白く光るカレッジフィヨルド  
静寂の中で、ただ息をのむ

# to ALASKA & HAWAII

速報!

## Cruise Information

### 2026年 アラスカ・ハワイ グランドクルーズ

横浜発着 2026年4月24日～6月8日

4/24	横浜	日本
5/5	コディアック【初寄港】	アメリカ
5/6	(カレッジフィヨルド)	
5/7	(ハバード氷河)	
5/8	ジュノー	アメリカ
5/9	スキヤグウェイ	アメリカ
5/11	ケチカン	アメリカ
5/13	ビクトリア	カナダ
5/14	シアトル【初寄港】	アメリカ
5/17・18	サンフランシスコ	アメリカ
5/24	コナ／ハワイ島【初寄港】	アメリカ
5/26	ナウイリウイリ／カウアイ島	アメリカ
5/27	カフルイ／マウイ島【初寄港】	アメリカ
5/28・29	ホノルル／オアフ島	アメリカ
6/8	横浜	日本

※詳しい旅行代金、区間乗船については、  
ホームページをご覧ください



Hawaii Tourism Authority

やっぱりここは楽園  
ホノルルはいつだって、誰だって  
自然と笑顔になれる

## 大自然の アラスカ・ハワイへ

2つ目のグランドクルーズは、  
7年ぶりに氷河のアラスカと楽  
園のハワイ4島を結ぶ夢の太平  
洋航路です。世界一周クルーズ  
でも人気のエリア、アラスカと  
ハワイの両方を1つのクルーズ  
で巡ります。迫力のカレッジフィ  
ヨルドやハバード氷河をたっ  
ぷりと船上から見学した後は、カ  
ナダのビクトリアへと向かいま  
す。アラスカの氷河をさらに楽  
しめる寄港地観光ツアーとして、  
上空の遊覧飛行も予定していま  
す。氷河はもちろん、海洋生物  
との出会いも楽しいなクルーズ

なので、双眼鏡があると一層楽  
しめますね。

氷河の後は、常夏の楽園へ。  
活火山とおいしいコーヒーが有  
名なハワイ島や、「太平洋のグラ  
ンド・キャニオン」と呼ばれる深  
い渓谷が広がるカウアイ島、世  
界最大の休火山「ハレアカラ山」  
がそびえるマウイ島、のんびり  
とショッピングも楽しめるオア  
フ島など、目覚める度に新しい  
島に出会えます。終日航海日も  
多く、ゆったりと大自然をクルー  
ジングしたい方におすすめのグ  
ランドクルーズです。

Photograph by P. Wei



サーモン漁で活気づく  
アラスカの港町、ケチカン  
シーフードを楽しもう

Photograph by Yoshio Yuda



水しぶきを上げ  
氷河が崩れる時、聞こえるのは  
ホワイトサンダー



# 地上の食卓と、

Cruising Library 11

二〇二二年秋、飛鳥Ⅱに乗船した。「船」を舞台にした小説を書くにあたっての取材だったのだが、その際、先方から思いがけず魅力的な申し出を受けた。せっかくだから、クルーズの最終日に講演会をしませんか、というものだ。「講師」としてイベントの裏側も覗けるのはこちらとしては願ってもないことで、ぜひ、と二つ返事でお受けした。その際、「講師」となったことで、飛鳥Ⅱがこれまでも多彩な講師を招いて、ワークショップやセミナー、習い事や教室のイベントをしてきた実績があることを知った。なるほど、船の旅は長い。目的地に向かうだけではなく、「滞在すること」そのものが目的になる船旅では、そうした時間がとても楽しそうだ。

実は私が参加したクルーズでは、嬉しい出会いが待っていた。絵付け教室の講師として招かれていた陶芸作家の望月集さんが、偶然にも私が行きつけにしているレストランのオーナーご夫妻のお友達だということがわかり、出会う前から私は望月さんの作品である器にお店でもしょっちゅう親しんでいたことが判明。これも何かの縁だろうと、私も絵付け教室に参加させてもらった。

とはいえ、私は絵心がまったくない。うまくできるだろうか、とドキドキしていると、先生が色鮮やかなシートをたくさんご用意して、待っていてくださった。陶芸技法のひとつである「色絵」の絵の具で作られたシートを貼っていく絵付けは、素人の私でも挑戦しやすい。皆が楽しみながら、それぞれの個性が出たお皿がちゃんと完成させられるよう、短い時間の中で先生がちゃんと考えてくださっていることがよく伝わる教室だった。隣り合う「生徒」たちが「その柄いいですね」とか、「上手!」と自然と声を掛け合っていく雰囲気もとてもよかった。

絵付けを終えたお皿は、後日、先生の工房で焼かれたものが、地上の私の家に届けられた。

三日月の形に切り抜いた黄色いシールと、その下に貼った飛鳥Ⅱのマーク。先生に教えてもらいながら色合いを重ねた柄たち。今も食卓に登場するたび、テーブルの向こうに船の時間がふっとつながり、その出会いに感謝する。



Illustration by Hana Akiyama

# 船の教室

文 辻村 深月

Mizuki Tsujimura

ツジムラ・ミヅキ／山梨県出身。04年に『冷たい校舎の時は止まる』でメフィスト賞を受賞しデビュー。11年『ツナグ』で吉川英治文学新人賞、12年『鍵のない夢を見る』で直木賞、18年『かがみの孤城』で本屋大賞を受賞。その他、『凍りのくじら』『ぼくのメジャースプーン』『傲慢と善良』『この夏の星を見る』など著書多数。



これまで何度も「飛鳥Ⅱ」にご乗船いただいているシンガーソングライターの渡辺真知子さん。ご自身の人生の節目とも重なった初乗船や、海外寄港地でのエピソードなど、楽しいお話を伺いました。

辿り着いた港町で  
見えてくる「飛鳥Ⅱ」  
母の懐へと飛び込むそんな安心感

## 初

初めての乗船は2008年のA・styleクルーズでした。その数年前に両親を続けて亡くしていたり、ちょうど事務所も新しくなったり、自分にとっても新たな船出というか、大きな節目を迎えていた時期でした。まだ喪失感もあったはずなのですが、お仕事をいただいた時に、客船の上で歌えるなんて「まだまだすてきなことが起きますんだ!」と思ったことはおぼえています。もともと横須賀の海の近

くで育ちましたけれど、これだけスケールの大きな客船に身を任せて海をゆくんだなんて、本当にわくわくしました。同時に、両親も乗せてあげたかったなあとか、いろいろな思いがよぎりましたね。

その後もいろいろなクルーズに乗船させてもらいました。一番感動したのは世界一周クルーズの最後に、アラスカのワードから乗り込んだことです。私たちは日本からアンカレッジへ飛行機で向かい、空港からはバスでワードま

で移動しました。途中はずっと山道だというので飽きるかなと思っていたら、あまりの壮大さにびっくり。バスの座席を右に行ったり左に行ったりしながらメンバー全員で絶景に感動しっぱなしでした。そうやって、辿り着いた先の外国の港に「飛鳥Ⅱ」が停泊しているのを見つけると、「ああ、帰ってきた」と、お母さんの懐に飛び込むような安心感がありますよね。きっと「飛鳥Ⅱ」はお客様に

## ア

ジアグラッドクルーズで香港から乗船したことも忘れられません。いよいよ

出港という時、さあ船上から夜景を楽しむぞと期待していたら、あれなんだか方向が違う?と最初は思ってたんです。ところが、わざと奥に入ってUターンして両岸の

夜景を見せながら外洋に出るという配慮だったのです。あの夜は「きれい!」「きれい!」と皆で何度連発したことか。本当にすてき

な思い出です。

今回のクルーズでは松山港から乗船しました。瀬戸内海は初めてですが、いつまで見ても飽きない景色ですね。やはり船上のステージですから、海にまつわる曲も選んできました。中でも「二雙の舟」という曲は中島みゆきさんの「夜会」のテーマソングです。2019年の「夜会」にゲスト出演させていただいた際に歌わせてもらった『カナリア』と『二雙の舟』の2曲を、デビュー45周年記念作品として2022年にリリースさせてもらいました。その『二雙の舟』は1曲で8分もあります。「夜会」でも必ず最後に歌われていて、人生のドラマを大海原をゆく2雙の船に例えたストーリー性のある壮大な曲です。船上でこの歌を聴きながらご自身の人生を振り返っていただけたらなと思います。

最近だんだん分かってきましたけれど、我々のステージが必要なのは、クルーズで海が続くところが多いんですね。太平洋のまっただ中とか。おかげさまで、他では経験できないような大自然を楽しませていただいています。が、いつか、次々と各国の港が続くようなそういう区間にも乗船してみたいです。でも、やっぱりそれはプライベートでかな。

# 渡辺真知子さん

photographs by Kazuhisa Natori

小舟が行き交う  
初めての瀬戸内海  
いつまで見ても  
飽きない景色



わたなべ まちこ／シンガーソングライター。1977年「迷い道」でデビュー。「かもめが翔んだ日」は日本レコード大賞最優秀新人賞他音楽祭12賞受賞。コンサート活動を精力的に続けており、オリジナルを中心にポップス・ジャズ・ラテン・クラシックなど、さまざまなジャンルをボーダレスに展開。国内はもとより、海外でもそのパフォーマンスに賞賛が寄せられる。



2024年9月  
「爽秋の瀬戸内  
九州・松山クルーズ」にて。



5台の発電機を持つ「飛鳥Ⅱ」  
船の推進はもちろん  
船内の電気と水を生み出す  
機関部に潜入しました

# 電気と水をつくる 「飛鳥Ⅱ」の心臓 エンジン

「飛鳥Ⅱ」は日本で建造された初めての電気推進の客船です。4台の主発電機（メイン・ディーゼル・ジェネレーター・エンジン）と1台の補助発電機を備えています。重油で発電機を回して電気を作り、その電気が船尾にある左右2基のプロペラを回して船を進めます。常に4台の主発電機をフル稼働するわけではなく、船の速度や天候などに応じて必要な台数を動かして、船の推進はもちろん、船内の電力全てをまかっています。

どのぐらいの発電能力があるかというと、4台の発電機を稼働すると、なんと1万世帯分（約2万1千キロワット）の一般家庭で使用される電力に相当します。港に停泊中の状態でも、電力は必要とされるので常時2台の主発電機は動かし

そうです。

そして、機関部のもう一つの大切な仕事は水を造ることです。以前は発電機の廃熱やボイラーで作った蒸気を利用して海水を沸かし造水するシステムでしたが、2019年の改装で造水器も新しくなりました。新しい造水器は4台あり、逆浸透膜の仕組みを利用して海水に高い圧力（1センチ四方に60キロ）を加えて真水を造ります。そのままでは飲めないで、真水にミネラルを加えています。

「飛鳥Ⅱ」ではキャビンの水栓から流れる水から、ギャレーで調理に使う水、プールやグラインドスパの水、そして掃除や洗濯などに使われる水まで、1日に約600トンの水が必要とされます。造水器1台で1時間に約9トン造水することができ

ますが、稼働できるのは航海中に限られます。航行スケジュールや海域によっては全てを造水でまかなうことができないので、岸壁での給水（補水）も必要になります。船内に水が貯められる清水タンクは1800トン。クルーズ中に水不足などということはあつてはならないので、通常8割程度の貯水量をキープできるように、先々のクルーズ日程や航路

なども考慮して計画的に水の管理を行っています。

明るくきらめく照明、そして蛇口を開けばきれいなお水が流れる。当たり前と言えば当たり前のことですが、電気と水は客船の生命線です。お客様に快適にお過ごしいただくために、エンジンの音と熱気に包まれて、約20人の機関士達が今日も額に汗しながらがんばっています。



笑顔がやさしい「飛鳥Ⅱ」を支える緑の下の力持ち



金属加工できる機械がそろっているワークショップ



止まっている発電機の蓋を開けて状態をチェック



24時間体制で当直機関士が目を見守る機関制御室



推進モーターをチェック、この右側（船外）にプロペラがあります



大小さまざまなレンチ、使用後の工具も整理整頓



今日の調子はどうかな？  
造水器のメンテナンスは欠かせません

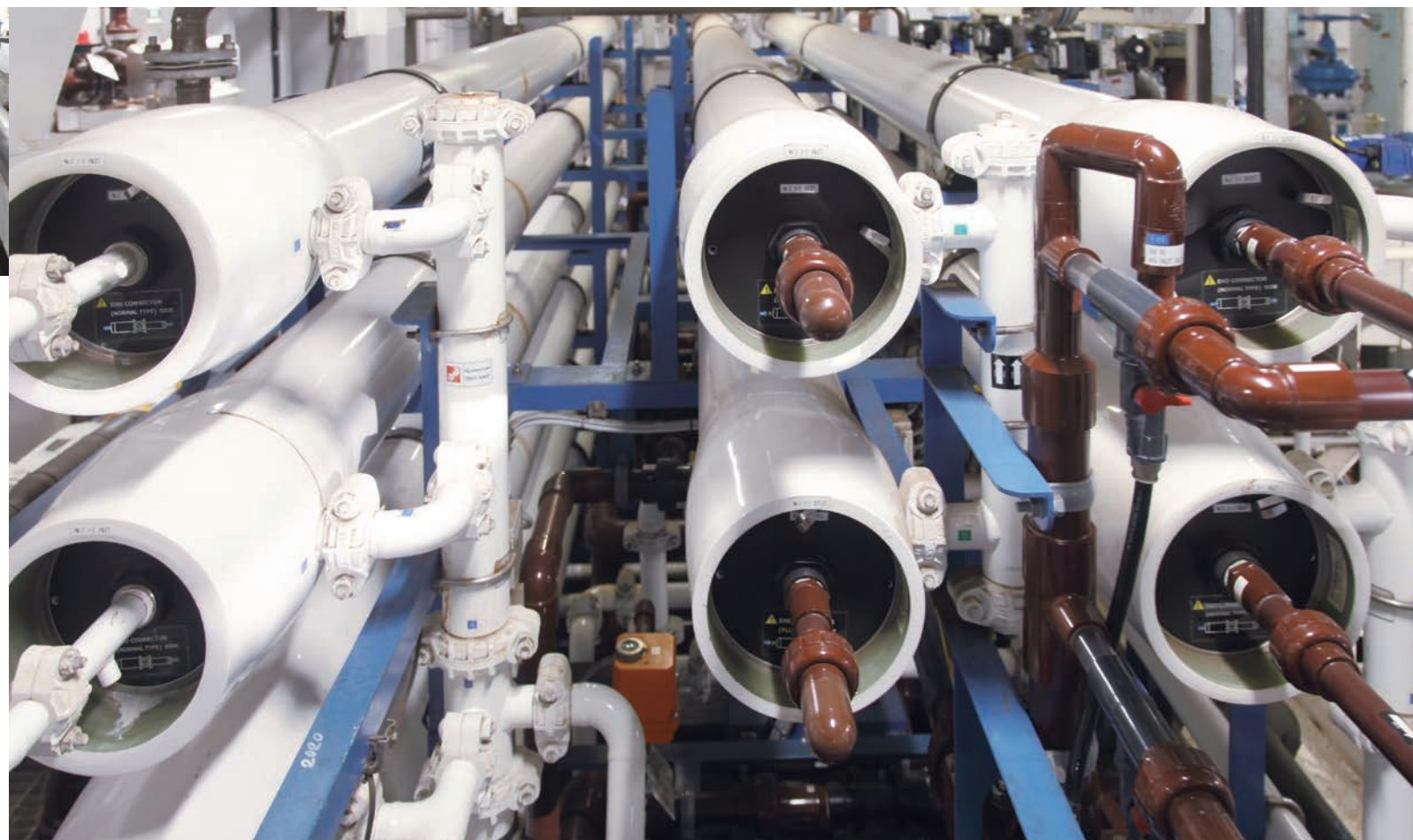
三等機関士

N. Ikemoto

造水器を担当しています。フィルターが詰まらないように、定期的にメンテナンスをしたり薬品洗浄を行っています。仕事に対する責任は常に感じています。メンテナンスから復旧させるときに手取ると造水量にも影響してしまうので焦ります。同じ機械でも1台1台個性があるので、調子よく動いてくれるように愛情を込めて整備しています。

Profile

2024年から「飛鳥Ⅱ」に乗船。前職の神戸・高松間のフェリーで勤務していた際「飛鳥Ⅱ」を見かけ、日本最大の客船で働いてみたいと思ったのが転職のきっかけ。休暇中は飼い猫と遊んだり、料理などの家事を担当。得意料理はロールキャベツ。



筒状の部分に入った逆浸透膜に海水を通していきます



# Maiden Voyage

20th July 2025

飛鳥Ⅲ  
初航海へのカウントダウン  
夢はまもなく、  
あなたと海へ



初代「飛鳥」から「飛鳥Ⅱ」へ。  
お客様とともに数多の海を航り、  
日本のクルーズ文化を育み進化させてきた  
飛鳥クルーズ。  
そして、新たな時代のクルーズライフの幕を  
「飛鳥Ⅲ」が開く時が来ました。

ASUKAⅢ

ドイツ北部の街、  
パペンブルグのマイヤーベルフトで建造され、  
日々、かたちになっていく「飛鳥Ⅲ」。  
“夢のゆりかご”から便りが届く度に  
胸ときめかせたのは、  
会員の皆様も私たちも同様でした。  
待ちわびた想いはひとつになって。夢はまもなく、あなたと海へ。  
「飛鳥Ⅲ」就航へのカウントダウンが始まりました。

2025年7月20日  
就航セレモニーが  
開催されます！

7月20日「飛鳥Ⅲ」の就航を  
お祝いするセレモニーが横浜  
大さん橋国際客船ターミナルで  
開催されます。花束贈呈、音  
楽隊の演奏、バルーンリリース、  
消防艇による放水など華やかに  
「飛鳥Ⅲ」を歓送します。ぜひ、  
皆様お誘いあわせの上お越し  
ください。



2024年4月  
「飛鳥Ⅱ」世界一周出港セレモニーより



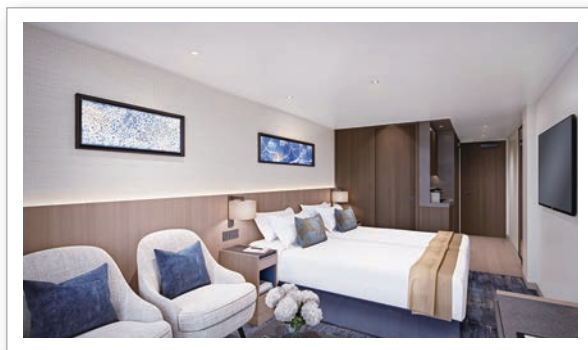
# 飛鳥Ⅲ エピソードゼロ

構想から10年を経て、「飛鳥Ⅲ」として結実した夢。その魅力の背景を語ります。

## 多様な文化の ハーモニーが叶えた 上質な寛ぎの空間

新造船準備室室長

Y.Toshimori

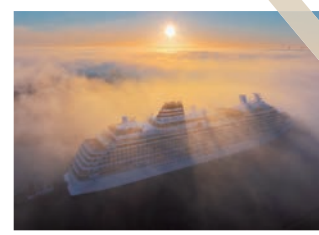


世界が認めた「アスカバルコニー」の居住性の高さ

これからの時代の多様性を先取りしたようなメンバー構成。それが「飛鳥Ⅲ」の新造船プロジェクトでした。ドイツのマイヤーベルフトやイギリスのデザイン会社・SMCデザイン、そして郵船クルーズが関わり、目指すゴールを共有しながら、その多様性の相乗効果で「飛鳥Ⅲ」は比類ない魅力のある船になりました。

プロジェクトのスタート以降、思い出に残る節目は数々ありますが、私がひとつ挙げるならばCSIアワードの受賞です。この賞は国際的な客船インテリアア

ワードで「アスカバルコニー」がベストステートルーム賞を受賞。キッチンシンクを設けるなど従来のスタンダードルームの常識から一歩踏み込んで、居住性を高くしようとSMCデザインと取り組んだ成果でした。スタンダードルームであっても狭さを感じない。そして落ち着く。レイアウトやインテリアのバランスがいいんです。入口から入ると浴室側の壁はダークな色調、反対側の壁は淡い色調という配色もその一例です。通常ならソファを置くところを椅子2脚にしたのは、ちよつと動かせばお部屋でお食事が快適にできる工夫。備え付けの引き出しの底には、クッション素材を敷くことで、メガネなどケースに入れずにポンと置けたり。住み心地を高めるちよつとした工夫が随所に。ぜひ実現したかったのがナイトライト。夜、同室の人を起こさずに、自分自身も眩しくなくトイレに誘



右／「月」のマークがナイトライトのボタン



左／引き出しにも工夫

レまで誘導するという仕組みです。

ここでは「アスカバルコニー」をご紹介しますが、他のどの客室も国を超えた客船のスペシャリストたち、そして郵船クルーズの30余年の経験が落とし込まれた居住性の高い空間になっています。どうぞご期待ください。

## 地球に優しい技術は クルーズの新たな可能性を 拓く技術でもある



プロジェクト準備室  
特命事項担当技師長

M. Maru



ドイツの造船所内に  
サイトオフィスを開設

私は約10年前、新造船プロジェクトの初期の計画段階から技師として参加し、2023年5月にドイツのマイヤーベルフト造船所内にサイトオフィスを開設し、駐在しました。

日本郵船グループが新造船客船を建造するのは、2003年のクリスタル・セレニティ以来で、その後の約10年、客船に注がれる技術は時代の求めに応じてかなり進化したと感じます。

「飛鳥Ⅲ」は地球に優しいエコシップを目指しました。燃料に使うLNG（液化天然ガス）はCO2や窒素酸化物の排出量が少ないエコな燃料です。このLNG燃料で発電をして、推進装置のモーターと船全体で使う電力をまかないます。LNGは、マイナス160度程度の液体ですが、本船でも、この極低温のまま貯蔵タンクで貯蔵し、エンジンやボイラーで燃料として使用する際は常温程度まで温めて気化させて使用します。極低温のLNGですので、貯蔵タンクはこの極低温でも破壊さ

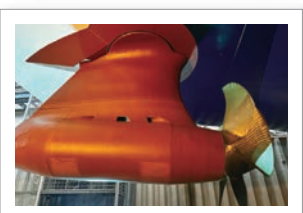
れない特殊な金属を使用し、また外気とは大きな温度差があるので、タンク内のLNGが急激な沸騰等を起こさないように貯蔵タンクは真空断熱構造にしました。また新たな技術として搭載されたのがD.P.S.（ダイナミック・ポジショニング・システム）。船を洋上のある一点に留めておける制御装置で、同時に船の方位も好きな方向に留めさせることも可能です。洋上で船は推進力を止めると海流や風波といった外力でその場に留まることができません。留めるためには錨を降ろすのですが、水深が深かったり海底に珊瑚などがあれば使えません。D.P.S.はそんな場所でも威力を発揮。新たな寄港地を訪れることが可能になります。その場で船の向きを変えられるので、例えば人気の洋上花火では、常にベストな位置に船を回頭できたりもします。

このD.P.S.と連携でき、その

能力を生かすのに相性の良いPOD推進装置を主推進装置として採用しました。船尾に2基装備し、それぞれプロペラの方向を360度どの方向にも向けることができます。

近年、世界の大規模客船のほとんどがこのPOD推進を採用していますが、その理由は静粛性と推進性能の良さ。従来のように機関室からプロペラまでをシャフトでつなぐ必要がなく、プロペラを比較的離れた場所に独立して付けられるので振動や騒音が抑えられます。また、POD推進に最適な船体設計ができるので、推進性能が高く燃費性能の優れたエコな船になります。

さらにIT設備も飛躍的に充実しましたのでワーケーションも楽しめるいただけるでしょう。



左／POD 推進装置



右／LNG 燃料格納タンクの設置

## 「飛鳥Ⅲ」の 食器に込められた ストーリー

### ノブレス

「飛鳥Ⅲ」のシグネチャーレストラン「ノブレス」で使われる食器の多くが「マイセン」。1710年、現在のドイツ・ザクセン州で誕生したヨーロッパ最古の硬質磁器ブランドです。採用されたのは「ブルーオニオン」という伝統的な柄や、「波の戯れ」という海を感じさせるモダンなシリーズ。伝統とモダンが融合したフランス料理を提供する「ノブレス」のコンセプトとは響き合うものがあります。「飛鳥Ⅲ」もまた、ドイツで誕生した客船という共通点も「マイセン」を選んだ理由です。



「ブルーオニオン」



「波の戯れ」

### アルマーレ

その日の厳選食材から、その時々のお気にぴったり寄り添う一皿を選ぶ。大人の遊び心をくすぐるイタリア料理のレストラン「アルマーレ」の美食を彩るのは、イタリアの美意識とクラフトマンシップを受け継ぐ名窯「ジノリ1735」の器たち。今回採用したのは、バロック様式のレリーフが特徴の「ベッキオジノリホワイト」や長方形のリングを鎖のようにつけた装飾がエレガントな「カテーネ」。



「ベッキオジノリホワイト」



「カテーネ」





スロットマシンは  
デジタルタイプから  
古き良き機械式まで。  
アンティークとも呼べるマシンは  
オブジェとして鎮座しています。



*Slot*

スロットマシン

♠

お待ちしております。



ブラックジャック・テーブルは  
ディーラーとお客様方が  
相対する半円形のかたち。  
ディーラーのカードさばきも見ものです。



*Black Jack*

ブラックジャック

Y. Tanimura

カジノディーラー

どうぞ、  
お気軽に！



♠



# カジノ♣ モンテカルロ

Casino Monte Carlo



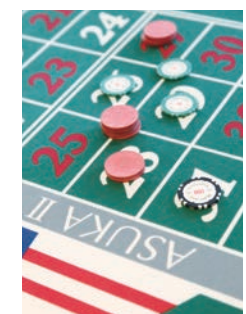
普段はあまり目にする事のない  
カジノの装飾や調度品。  
そこかしこに“ちょっと気取った大人の遊び”が漂う。  
「飛鳥II」のクルーズ時間を華やかに彩る、  
モンテカルロの美しいかたちをご紹介します。

飛鳥の  
美しい  
かたち



Collection 10

「飛鳥II」には  
さまざまな美が、  
さりげなく  
息づいています。  
その背景にある  
ストーリーを知れば  
確かめたくなる  
はずです。



ルーレット・テーブルは  
「飛鳥II」がデザインのモチーフに。  
木目が美しいルーレット盤に  
熱い視線が集まります。

*Roulette*

ルーレット

チップやコインの  
購入額に応じて  
記念品をプレゼント。



カラフルなチップはオリジナルデザイン。  
より大きな数字をゲットすれば  
興奮も最高潮！

Photographs by Kazuhisa Natori, Taishi Sakamoto





# いろいろな国や街の 景色を眺めながら どこまでも 走れそうな気がする

歩いて、走って  
デッキを回れば  
「飛鳥Ⅱ」も世界を回る

on



チーフパーサー

OFF



ランナー

チーフパーサー／  
クルーズディレクター Y. Masuda

東京都出身。初代「飛鳥」にクルーズスタッフとして乗船。2008年にアシスタントクルーズディレクター、2015年にクルーズディレクターに就任。2024年からチーフパーサーと兼務に。大学時代はヨットと合気道をしていました。球技は苦手だが、身体を動かすのが好きで、走るのも好き。



2024年9月  
「爽秋の瀬戸内」  
九州・松山クルーズ」中の  
鹿児島港で

## Q1. 普段のお仕事は？

チーフパーサーとしてお客様の入出港の手続きを始め、レセプション業務の監督、アスカディリーの編集長や船内放送も担当しています。エンターテインメント部門の仕事が長かったので「あれなんどこに？」と、お客様にびっくりされることが多いです。

## Q2. いつ走っていますか？

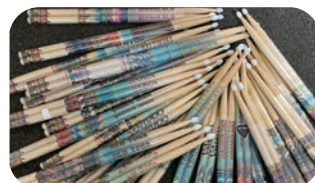
時間は特に決めていません。チーフパーサーになってからは寄港中の業務が多いので、終日航海日にプロムナードデッキを走ることが多いです。時間があれば、今日のように寄港地で走ることもあります。だいたい1キロ5分のペースで10キロぐらい走ります。

## Q3. 走っているときは何を考えていますか？

音楽を聴いたりして何も考えずに走っています。時々何か迷っていることがあっても、走っているうちにああこうすればいいのかと気がつくことがあります。走っているおかげで頭が整理されるようなことがあるのかもしれないですね。

## Q4. 寄港地ではどんなところを走りましたか？

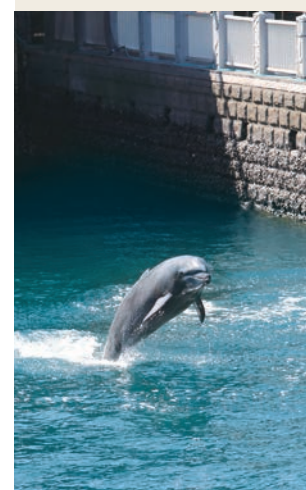
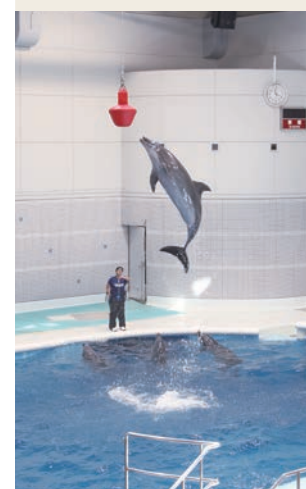
スペインのビルバオではゴシックやロマネスク建築が建ち並ぶ街を走って、ハードロックカフェを目指しました（海外のハードロックカフェのグッズを集めています）。函館港だと函館山まで登って帰ってくるとちょうど良いですし、ダイヤモンドヘッドもホノルル港から片道10キロ弱だったかな、途中休みながら走りました。



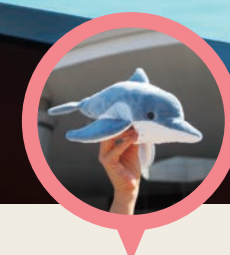
集めているドラムスティック

## Q5. 休暇中も走っていますか？

走っています。去年はマザー牧場の20キロのトレイルラン大会に出ました。山ではないけれど、牧場のアップダウンがあって辛かったです。フランスにワインを飲みながら走る「メドック・マラソン」という大会があるのですが、いつか出場してみたいです。



「いおワールドかごしま水族館」のイルカたちは伸び伸び楽しそう

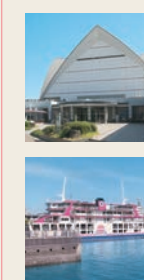


## 「いおワールドかごしま水族館」

**寄港地**で下船できれば必ず水族館に出かける程イルカ好きの私。中でもいちおしは「いおワールドかごしま水族館」です。ここはイルカとの距離が近いのが魅力。イルカのショーが人気ですが、私はそのプールの地下部分にあたる大水槽に直行します。イルカが水中で泡を出したり、それを噛みつぶして遊んだり、観客に寄つてきてくれて、耳をすますとイルカが出す音を聞くこともできます。そして珍しいのが、鹿児島湾につながつた屋外の水路にイルカが出てくること。自由に泳いだり、飛び跳ねたり、水路の中にある生き物を追いかけたら、伸び伸びと楽しそうに泳いでいます。水族館の外なのでここは無料ゾーン。犬のお散歩で通りかかった人も興味津々です。ワンちゃんがイルカを見て尻尾を振っていました。

イルカを洋上で見て興味を持たれたお客様は多いと思います。そのイルカをもっと間近に楽しむならココ。私のいちおしです。

いおワールドかごしま水族館 鹿児島市本港新町3番地1



「いおワールドかごしま水族館」は「飛鳥Ⅱ」が接岸するマリンポートかごしまから車で約30分。桜島に渡るフェリー乗り場の近くなので、桜島観光の途中に立ち寄られてみてはいかがでしょうか。

取材班は帰りに天文館繁華街に立ち寄り名物のかき氷「白熊」を味わい、お土産に「かるかん」を購入してミツシヨンを完了しました！

取材日：2024年9月27日



アシスタント  
パーサー(取材当時)

L. Okuda



**訪ねて  
みました**



# 雨宮 弥太郎

元禄3年から「雨端硯」の伝統を継ぐ  
名家の13代目として硯を作る、雨宮弥太郎さん。  
「硯は伝統を礎とした現代彫刻」という  
想いを現した創作活動に対して第2回日本工芸会賞  
飛鳥クルーズ賞が贈られました。

伝統工芸でありながら  
現代美術でもある  
それが私の硯のありよう

雨宮硯は初代雨宮孫右衛門が、元禄3年に身延山参詣途中に雨宮の河原で黒色の石を見つけ、それを硯にしたことが始まりと伝えられています。明治期に中村正直氏に名を賜り、その後、当家は「雨端硯」を号しています。

私は子供の頃からものづくりが好きで芸術への憧れが強く、祖父や父も東京芸術大学で学んでいたことから私も自然な流れで彫刻科に入學しました。若い頃は現代美術に傾倒していましたが、やはり硯の家だということで硯も創作。今思えば若気の至りで、ファインアートと工芸というのは全く別物で、現代彫刻を作っている自分と硯を作っている自分は別者と分けていました。ところが自分なりの創作を続けていくうちに、硯というのは墨をする道具というだけでなく、突き詰めていけば伝統工芸でありながら現代美術でもあるような造形ができるのではないか、と思い至ったわけです。

設計図があるわけではなく  
原石の状態とイメージを  
共鳴させていく

硯に使う雨宮の石は堆積岩なんですけど、生成する時に

長石や雲母といった微粒子が発生します。それが均一に岩石の中にある状態が良石の条件です。触った感じは滑らかですが、顕微鏡で見ると微粒子が立っていて墨を噛み入す。しかも、使い続けても摩耗が少ないのが雨宮の石です。創作工程としては、まず上下を削って平な板状に。次に求める形に外側を切断し、ノミで硯の陸や海を掘っていきます。その後、砥石を使って細かい形を決めていく。



Yataro Amemiya

最初から設計図があるわけではなく、原石の状態と自分のイメージをたえずすり合わせて共鳴させながら、手探りの試行錯誤を繰り返すうちに、原石から求める形がはつきりと現れてくる。イメージに満ちていると制作中は無私の境地になって、考えなくても手が動くんです。

「これは何かの表現です」というよりも、私が今までの人生で培ってきたものが形の中に自然に現れていて、それが

見た人に何かいい影響を与えてくれるというのが、一番いい作品のありかただと思っています。

禅における石庭のような  
心豊かにする

精神的なオブジェとして

硯は黒色ですから、伝統工芸の中では地味な存在です。けれども硯は墨をするという用途を越えて、墨をするうちに心を鎮め、自然の悠久のリズムに心を開いていくための「精神の器」として重要な役割を担っています。硯というのはいろんなあり方があって、硯本来の用途として使いやすいものも作っていますが、作品として作っているものは精神的なオブジェとしての彫刻作品だと考えています。それは「禅」の「石庭」と同じようなものと言えるかもしれません。ご自宅に石庭を設けることは難しくても、硯ならご自分の特別な場所に置き、時々眺めていただければ俗世を忘れ、清らかな心になれるのではないのでしょうか。

「飛鳥Ⅱ」船内でご覧いただける作品は、「環池硯」。池が回っている硯という意味です。シャープで要素を減らしたシンプルな造形という自分のスタイルを確立した頃の作品です。賞をいただいたことはとても光栄なことですし、「飛鳥Ⅱ」に乗船されるお客様が、ふだんあまり目にされない「精神の器」としての硯に接していただけることを何よりうれしく思っています。



「環池硯」

山梨 鰍沢

硯

Vol.07



私が人生の中で  
培ってきたものが  
硯の形の中に  
自然に現れていて  
見た人に  
何かいい影響を  
与えるというのが  
一番いい  
作品のありかた  
だと思う







ビュッフェライン  
は“多島美”  
のような賑わい



この地の食材が  
目にも鮮やかな  
お料理に



**朝** 松山を出港した「飛鳥Ⅱ」は島々の景色が美しい瀬戸内海のエリアに入り、因島大橋(三原瀬戸) 方向へと航海します。この多島美を航るタイミングで昼食の「瀬戸内ビュッフェ」をお楽しみいただくという趣向です。瀬戸内で採れた旬の海産物、育てられた食材をこの日のために集め、お料理に仕立ててビュッフェに。目にも美しいカラフルなヒオウギ貝や、オリーブを与えて養殖された小豆島のオリーブハマチといった海の幸。山の幸も、広島瀬戸内六穀豚やささゆりポーク、香川のオリーブ地鶏、長州鶏、秋に楽しめる愛媛の早生みかん日南1号、広島・世羅の豊水梨などあげればきりがありません。甘味としては、ご存じ広島のみみじ饅頭、岡山のきび団子、愛媛の一六タルトもご用意しました。穏やかな瀬戸内海、美しい島々を眺めながらこの地が育んだ美味しいものを召し上がっていただく。まさに「飛鳥Ⅱ」ならではの思い出に残るランチビュッフェだといえるでしょう。



総料理長

J. Taki



クレープ  
広島ネーブルジャム添え



フレンチトースト  
広島ネーブルジャム添え



パンケーキ  
小豆島ハチミツ添え

瀬戸内や四国の旬の食材を  
ふんだんに取り入れたビュッフェは、  
多種多彩のにぎやかさ。  
あれもこれもと欲張ってしまう!

瀬戸内各地の味自慢を  
ビュッフェで  
食べ比べ



多島美をめぐり  
美味に  
出会う

瀬戸内ビュッフェ

美 食  
遊 覧

第十回

流れゆく  
洋上の景色を  
愛でながら、  
その航路や  
寄港地周辺の海の幸、  
山の幸を堪能する。  
そんな「飛鳥Ⅱ」  
ならではの美食体験を  
ご紹介しましょう。



# 「飛鳥Ⅲ」のオリジナルジュエリー

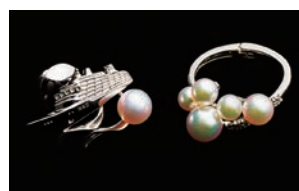


左／マベパール波のプローチ  
右／マベパール波のネックレス

「飛鳥Ⅲ」の船上でしか  
出会えない  
マベパールジュエリー



左／マベパールネックレス  
右／マベパールイヤリング



左／アコヤパール  
飛鳥Ⅲピンブローチ  
右／アコヤパールリング



「飛鳥Ⅲ」ジュエリー オープ

を揃えるのは極めて難しいのですが、「飛鳥Ⅲ」のために特別に数を確保することができ、希少性の高いフルネックレスが実現できました。

お客様に自信を持っておすすめできる素材と技術でオリジナルジュエリーを制作したいという願いから、つぎに辿り着いたのが山梨県でした。古くから水晶の産地である山梨では、水晶の研磨技術を応用した金属加工で有名です。さらに、波しぶきをやわらかに表現したゴールドのフレームに大粒のマベパールを入れ、まわりにはダイヤモンドをあしらいました。

1年以上の制作期間を経て生まれたオリジナルジュエリー、担当者の思いもひとしおです。「真珠は同じように見えてそれぞれ個性があるので、出会いも一期一会。ぜひ実際にお手にとって見ていただきたいです」

ついに就航する

「飛鳥Ⅲ」は、船上でのショッピングも充実しています。ジュエリーオーブで限定販売されるオリジナルジュエリーについて、奄美大島の養殖場へも見学に行った商品開発担当者に話を聞きました。「マベパールは奄美大島を北限とする地域で育つマベ貝という大きな貝から採れる半円のパールです。良質な貝を作る貝を選抜し、長年サラブレッドを生み出す様に掛け合わせることで、天然貝よりも美しく粒の揃ったパールができます」

## PICK UP!

今回のオリジナルジュエリーは、波しぶきのような船旅を感じさせるモチーフをデザインに取り入れました。普段の生活でも身につけていただきたやすいですし、ジュエリーを通じて常に海や船と繋がっていただけたら良いなと思っています。

商品開発中では私の一番のお気に入りにはアコヤパールの指輪です。船上では指輪のサイズ調整ができず、お買い上げいただいてもすぐに身につけられませんでした。ところが、これはリングが開閉式なのでフリーサイズなのです。サプライズのプレゼントでも大丈夫です。

ホテル部MDチーム  
**M. Itokawa** さん

2018年に、「飛鳥Ⅱ」へクルーズスタッフとして乗船。ショップクラークを経て、現在は陸上本社に出向中。休日はウクレレやスチールパンの演奏などを楽しみます。



Cruise Desk

## クルーズデスクから

クルーズコーディネーター

K. Egashira



太平洋上での感動のランデブー！  
「飛鳥Ⅲ」との「遭遇」は  
2人の船長の巧みな「仕業」だった

5月初め、「飛鳥Ⅱ」で航く最後の世界一周クルーズの途中、ドイツの造船所を出て日本に向かう途上の「飛鳥Ⅲ」との「遭遇」は、お客様の感動を呼ぶ大きな出来事でしたが、もちろん遭遇とは真逆で、いかにしたらお客様に喜んでもらえる感動的なサ

プライズになるか、「飛鳥Ⅱ」と「飛鳥Ⅲ」それぞれの船長が綿密に打ち合わせをし、内密を押し通した「仕業」でした。「飛鳥Ⅱ」の渡辺キャプテンはいつも冷静沈着で、ボーカールフェイスは得意なところ。一方、「飛鳥Ⅲ」は皆様ご存知、小久江

キャプテンが初代船長ですが、かつて「飛鳥Ⅱ」2018年世界一周クルーズで予定の航路から大きく外れ大西洋上の絶海の孤島、セントヘレナ島へ船を進めサプライズを大成功させた、サビズ精神旺盛な船長!! その2人がタッグを組んだのですから演出も振るついで、先回りしてセントヘレナの島影に隠れていた? 「飛鳥Ⅲ」が、遙か遠くに船体を見せ始めた時の感動は、どれ程のものだった事でしょう。お互いにじわじわと接近しエールを交わし合える

距離にまで近づいた時には、お客様とクルー達の喜びは最高潮に達したはず。 「飛鳥Ⅱ」が世界一周クルーズから横浜に帰着する日は、横浜大栈橋で「飛鳥Ⅲ」が「飛鳥Ⅱ」を出迎え、その日に「飛鳥Ⅲ」の命名式が執り行われます。実は、「飛鳥Ⅲ」は一足早くヨーロッパで、アマデア(初代「飛鳥Ⅱ」)ともランデブーを果たしたと言います。いつの日か3船が横浜で並ぶ日を夢見て、まずは「飛鳥Ⅱ」と「飛鳥Ⅲ」が初めて横浜で並ぶ歴史的な光景にご期待ください。

おまかせデスクの笑顔さん ⑪





## 読者プレゼント

オリジナル  
今治バスタオル  
を10名様に

船内でも使用している  
ジャガード織の吸水性  
抜群なオリジナル今治  
バスタオル。船内使用品  
との違いとして飛鳥ク  
ルーズロゴの刺しゅうを  
施しました。

宛て先

〒220-8147  
横浜市西区みなとみら  
い2-2-1 横浜ランドマ  
ークタワー47階 / My  
ASUKA CLUB 事務  
局「ASUKA」編集室

●締切／2025年8月8日  
ハガキには「バスタオル  
希望」と書き、お客様の  
①郵便番号 ②住所 ③氏  
名 ④年齢 ⑤電話番号  
⑥本誌『ASUKA』に関  
するご意見、ご感想を  
明記してください。（お書  
きいただいたご意見・ご  
感想は本誌に掲載させ  
ていただくことがあります）

※発表は発送をもってかえさ  
せていただきます。※お客さ  
まから寄せられた個人情報  
は、目的以外には使用しま  
せん。

こちらから  
応募できます

<https://myac.asukacruise.co.jp/form-entry>

My ASUKA CLUB  
会員の皆様へ

はじめて飛鳥クルーズにご乗船された  
会員様も、何度もご乗船いただいでいる  
お客様も、いつも飛鳥クルーズをご愛顧  
いただきありがとうございます。

クルーズライフをお楽しみいただいた  
後、ご自宅でお過ごしの間もクラブ誌  
「ASUKA」の誌面を通して、飛鳥クル  
ーズの魅力の他、普段目にすることが少な  
い船長・乗組員・社員の活動、エンター  
テイメント・工芸のバックステージなど、  
飛鳥クルーズに関わる様々なことに触れ  
ていただき、改めて御礼を申し上げます。

さて、まもなく「飛鳥Ⅲ」が就航し、  
2隻で運航することになります。「飛鳥Ⅱ」、  
「飛鳥Ⅲ」にはそれぞれの良さや楽し  
み方があります。これら客船の魅力をお伝  
えることにとどまらず、皆様の生活ス  
タイルや価値観がより豊かなものになるこ  
とを目指し、次回112号より誌面をリ  
ニューアルいたします。

クラブ誌「ASUKA」の誌面を通じて、  
旅・食・ファッションなど、多彩なテーマ  
で、知的好奇心を満たし、皆様の人生  
をよりDRESS UPすることを目指してまい  
ります。

なお、My ASUKA CLUBサイトでは  
デジタルコンテンツとして私の少しマニ  
アックなコラムなども紹介しています。こ  
ちらも是非ログインしてご覧ください。

クラブ誌「ASUKA」とともに、My  
ASUKA CLUBを引き続きご愛顧くださ  
いますよう、よろしくお願いいたします。

My ASUKA CLUB  
会長

中村大輔



My ASUKA CLUBへの  
ログインはこちらから  
<https://myac.asukacruise.co.jp/>

優秀クルーを  
ご紹介します

CREW AWARD

2024年度第3四半期



優秀賞

Naris  
(宮繕部)

優秀賞

Adrian  
(テクニカル)

優秀賞

AI  
(ハウスキーピング)

ベストスマイル賞

Ces  
(ハウスキーピング)

2024年度第4四半期



優秀賞

Ley  
(機関部)

優秀賞

N. Tamura  
(アシスタントバーサー)

優秀賞

Chloe  
(プロダクションマネージャー)

ベストスマイル賞

Reyshiel  
(ハウスキーピング)

2024年度年間優秀クルー

Joshua  
(甲板部)Adrian  
(テクニカル)

## My ASUKA CLUBからのお知らせ

Club Information

Information

1

「飛鳥Ⅲ」の記者発表を開催  
飛鳥クルーズは  
2隻運航へ！

2月20日、34年ぶりとなる郵船クルーズ  
の新造客船「飛鳥Ⅲ」の記者発表が行  
われました。

会場では、バトラーサービス付きのペ  
ントハウスクラスを含む3つの客室クラス  
や、選べる6つのレストラン、そして展望  
大浴場や露天風呂などの魅力的な施設  
の数々を紹介。飛鳥クルーズアンバサ  
ダーの小山薫堂さんが紹介する動画も

公開されました。（飛鳥クルーズ公式  
You Tubeからご覧いただけます）

船内には日本を代表する作家による  
アートが飾られ、船旅の中で本物の芸  
術に親しめる空間であること。さらに、  
「A3エクスペリエンス」と名付けられた  
体験型の特別な寄港地観光ツアーが企  
画されていることなども、発表されまし  
た。

「飛鳥Ⅲ」は7月20日に母港・横浜で  
就航セレモニーを行った後、Maiden  
Voyage（初航海）へと出航します。こ  
の初航海を含む17本そして2026年1月

までのクルーズも現在販売中です。横浜、  
博多、神戸発着の「Debut Cruise」や、  
「飛鳥Ⅲ」として初めての「秋の日本一  
周クルーズ」などバラエティ豊かなクル  
ーズの詳細は、ホームページやパンフレット  
をご覧ください。

記者発表で最も注目が集まったのが、  
「飛鳥Ⅱ」と「飛鳥Ⅲ」の2隻運航が始  
まる点です。2隻になることで、お客様  
の選択肢も広がりますし、「飛鳥Ⅲ」の  
登場によって新たなお客様にクルーズの  
楽しさを知っていただく機会も増えそう  
です。



Information

2

「飛鳥Ⅲ」の入港記念盾が  
できました

初入港の際に贈呈される記念盾をご  
存じでしょうか。岸壁でセレモニーをご  
覧になられたことのある方もいらっしゃる  
と思います。その時に船長が贈呈する  
のが記念盾です。

今回新たに制作された「飛鳥Ⅲ」の  
記念盾は、Kouyamaさん（元クルーズ  
スタッフ）がデザインしました。盾の外枠  
はウォルナット材で、ブランドカラーである  
深縹（こきはなだ）色のスチールプレート  
にゴールドで紋様が浮き出しプリントさ  
れています。

「新しさの中にも伝統や文化、歴史を  
感じさせるモチーフを使いたいと考え、  
日本文化が花開いた飛鳥時代の唐草

模様をデザインに取り入れました」と、  
Kouyamaさん。

「飛鳥Ⅲ」はこれから初寄港が続いま  
す。ぜひ一緒に初寄港をお祝いしてくだ  
さい。



M. Kouyama  
コンテンツクラークとして  
「飛鳥Ⅲ」に乗船する